

令和5年度高等学校生徒支援体制充実事業 教育活動充実支援事業【総合的な探究の時間】研究成果発表 宮城県佐沼高等学校

〈研究のねらい〉

地域人材・資源の活用を通し、自己の在り方や生き方を考えながら、よりよく課題を発見・解決していくための資質・能力を育み、人との交流を通じて豊かな人間関係を構築する。

〈研究開発計画概要〉

登米市の地域課題を横断的・総合的なグローバル課題と関連付け、生徒自らが探究課題を設定し、その解決に向けて行政機関や有識者等から指導助言をもらいながら、「情報収集、整理・分析、まとめ、表現・発表」を探究プロセスとして学習活動を行う指導体制を研究開発する。

〈具体的取組① 4～5月〉

- ・ ガイダンス(探究活動の意義・価値の理解)
- ・ 各種ツールによる自己理解
- ・ 自身の興味・関心の発見・気付き
(まるオフィス・底上げによる講話・演習)



〈具体的取組② 6～7月〉

- ・ 地域行政・職業人の取組や課題理解
- ・ SDGsマルシェへの参加
- ・ 3学年分野別・全体発表会
(地域理解講座、職業人講話、3学年探究発表会)



〈具体的取組③ 8～10月〉

- ・ 研究テーマ・手法の確立、仮説の設定
- ・ key noteによるスライド作成
- ・ 1・2学年探究発表会(中間発表)
大学教授をアドバイザーとした分野別発表



〈具体的取組④ 11～3月〉

- ・ 研究テーマ・仮説の再設定、まとめ
- ・ FW、ヒアリング、アンケート調査
- ・ 1・2学年探究発表会(ポスターセッション)
1学年59、2学年50グループでの発表
- ・ みやぎ高校生フォーラムへの参加



〈成果・まとめ〉

- ・ 様々な事柄や人々の考えに出会うことで、課題解決に必要な知識技能を身に付け、探究活動の意義を理解した。
- ・ 地域や専門家との交流を通じ、解のない課題に対して自ら問いを立て、情報収集、整理・分析してまとめることができた。
- ・ 級友らと協働し、よりよい社会の創造に向けて地域社会に貢献しようという態度が育成された。
- ・ 他者の意見を理解し、自他のよさを認めながら、建設的に調整するコミュニケーション力を育成するとともに、探究した学びを将来の自己の在り方や生き方につなげて考えることができた。